



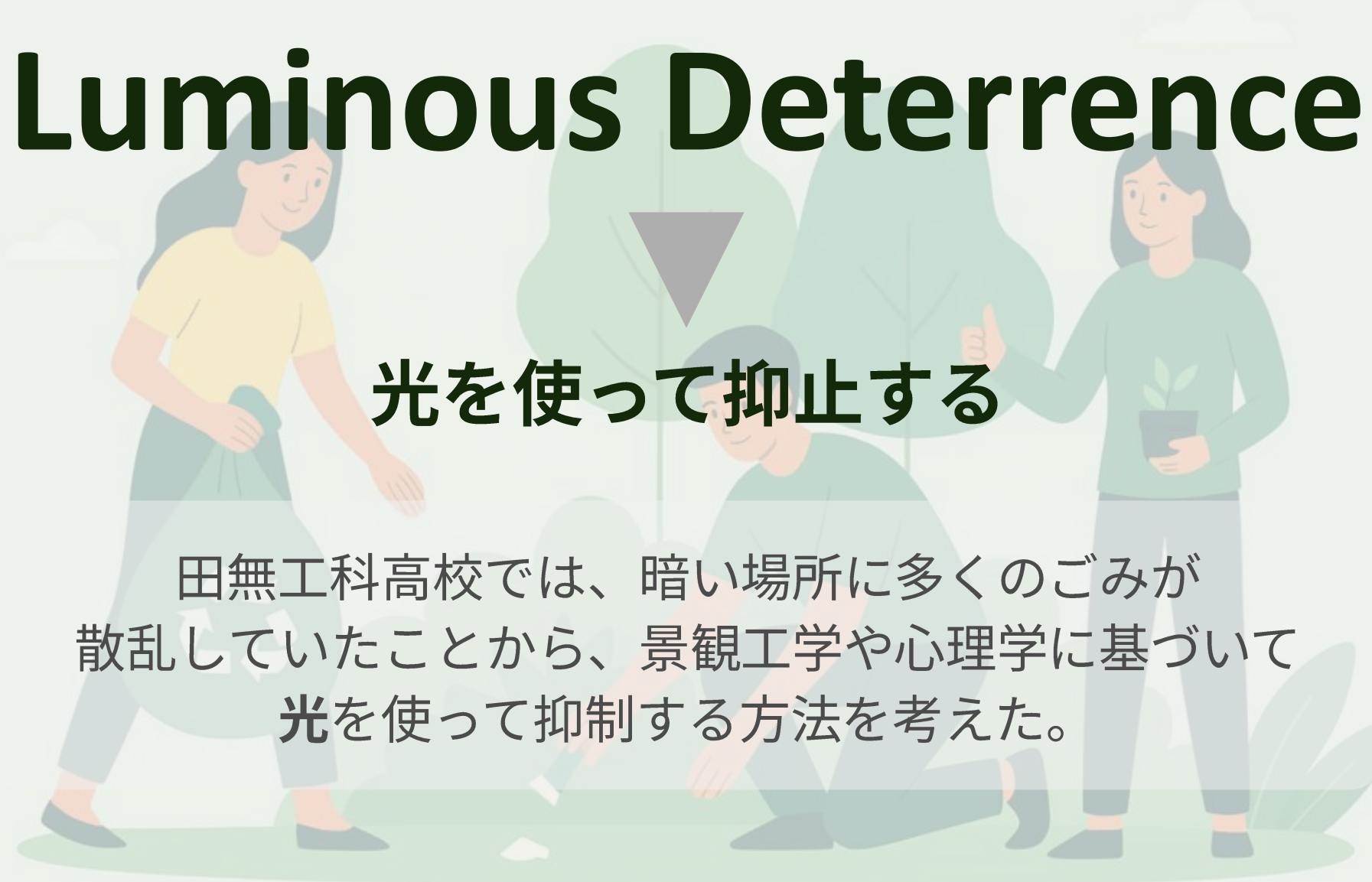
資源循環サミット

Luminous Deterrence

令和8年 8月19日

東京都立田無工科高等学校

Luminous Deterrence



光を使って抑止する

田無工科高校では、暗い場所に多くのごみが散乱していたことから、景観工学や心理学に基づいて光を使って抑制する方法を考えた。



ベンチの下

休憩中に放置されたと思われる飲料容器やビニール袋が目立った。



茂みの中

外部から見えにくい奥に菓子袋や塩ビ管が押し込まれていた。



暗所・死角

人目が届きにくいためか多くの吸い殻やその他ごみが多く捨てられていた。

II 対策案



※本図はAIを用いて作成したイメージです。実際の景観・設備とは異なる場合があります。

I

✓ 仕組み

ナイトセンサーにより夜間のみ椅子の下や茂みを自動で照らす。

✓ 効果

景観を向上させ、利用者のマナー意識を向上させることにつながる。
(割れ窓理論による抑止効果)

✓ 仕組み

ナイトセンサーにより夜間のみ通路や角などを自動で照らす。

✓ 効果

隠せる場所を減らすとともに、歩行者の動線を明確化できる。
(ナッジ効果)



メリット

- ✓ 暗所を減らし、ポイ捨て等を心理的に防げる。
- ✓ 市民の憩いの場としての機能の拡充につながると考えられる。
- ✓ 空間の安全性を高め、誰もが安心して過ごすことにつながる。



デメリット

- ✕ 施工や維持管理に際して、多額のコストが生じる。
- ✕ 光度によっては、近隣の方への迷惑となる恐れがある。
- ✕ ライトに虫が集まってしまい、不快感を与える恐れがある。

ご清聴ありがとうございました



※本図はAIを用いて作成したイメージです。実際の景観・設備とは異なる場合があります。